

中小企業の

現場改善の



の進め方

第7回

新型コロナウイルス感染 物流を手掛けている中小企
業の現場の改善や事業拡大
によるECの利用が増加。
の参考にもなるはずだ。

小売りなどでは、新たな販
売チャネル構築や既存EC
事業の拡大を迫られると同
時に、EC物流の需要も増
している。EC物流の主な
業務は、商品の入荷、保
管、出荷を担う倉庫業務
と、顧客まで商品を届ける
配送業務に分けられる。

課題として、ECに対応
した庫内環境の整備と作業
品質の担保が挙げられる。

異なり、ECは多品種小ロ
ットのため、多数の商品を
在庫として保管することに
なる。新設する倉庫を多種
類にわたる商品の保管効率
を高めるレイアウトとする
などの対策はあるが、初期
費用の負担は大きくなる。

今回はEC物流に新規参
入する中小企業を念頭に、
倉庫業務の構築で直面する
課題と、その解決に活用で
きるサービスの利用方法に
ついて説明する。既にEC

クニエ

ロジスティクスグループ

大室 翔史

マネージャー

EC物流への対応

倉庫シェアリングサービス利用に向けた準備

― 自社情報の把握 ―

- 1 事業計画に基づいた
中期で取り扱う物量
- 2 定義したサービスレベル
に基づく品質基準
- 3 業務で使用する
商品などの規格

倉庫シェアリングサービスの
選定と実現
(初期費用低減・固定費削減)

また、頻繁に購入されな
いものの、一定の需要があ
るロングテールの商品を扱
う場合、在庫となる商品の
種類と数がさらに増え、管
理費用も上昇する。繁忙期
には倉庫スペースが足り
ず、逆に閑散期は固定費が
重荷となる。

シェアリング で負担を低減

こうしたリスクは、「シェ
アリングサービス」を利用
することで低減できる。自
社で新たに専用倉庫を新設
するのではなく、他社の倉
庫の空きスペースを使うこ
とでコストを削減できる。

例えば、倉庫の空きス
ペースの印刷・同くん、特別
リースのマッチングサービス

「souce」は、物流企
業がオンライン上に自社施
設の空きスペース情報を登
録し、一方で空きスペース
を必要とする企業はそれら
の情報を検索して賃借でき
る。短期間での契約が可能
で、少量の保管スペースに
も対応。必要な分を必要に
基づき、中期で取り扱う
商品数、物量を正確に捉え
かつ、少ない物量でも、初
期費用を大幅に抑えられ
る。

スペースのシェアだけで
なく、日立物流やSGホー
ルディングスが提供してい
る、EC物流に特化した倉
庫業務の効率化や省人化を
実現させるプラットフォーム
(基盤) も利用できる。
保管や作業スペースはもち
ろのこと、こん包・出荷
業務の自動化を可能とする
設備や、管理者・作業者と

おおむろ・しょうじ 2010年米ナショナル大
経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉
庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルテ
ィングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現
職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティ
ングを手掛ける。